

「読書のすすめ」

数学科 佐伯 哲之

私には読書の習慣がありませんでした。私が学生の頃、現在では当たり前となっている「朝の読書の時間」というものはありませんでした。子どもの頃から読書が苦手で、興味のない文章は右から左へ抜けてしまい、全く頭に入りませんでした。今の時代のように、「朝の読書の時間」があったなら読書の習慣が私にもあったのかもしれませんが。

そんな私も、教員になり「朝の読書」を経験しました。担任だった私は、クラスの生徒と読書をすることになりました。読書の苦手な私には、最初は苦痛な時間でした。しかし、毎日の「朝の読書」を繰り返すことで、本を読むという習慣が少しずつつき始めた私は、徐々に読書の楽しさを感じるようになりました。読書を続けるうちに、もっと若いときから、色々な本を読んでおけばよかったと思うようになりました。

社会人になり、色々な人と会話する中で、会話の引き出しが少なかった私は苦労しました。若いときからもっと色々な本を読んでおけば、本から得た知識や情報、感じたこと、考えることなど、会話の引き出しが増えていたと思います。また、自分の人生のターニングポイントで、また違った選択肢が増えていたのではと感じました。

皆さんも、興味のある本だけではなく、様々な分野の本を読んでみて、会話の引き出しを増やすとともに、これからの人生のヒントを見つけてみてはどうでしょうか。

前期 7.0 冊

後期 4.7 冊

全校 5.8 冊

上記の数字は、4月～11月の本校図書館の貸出冊数の平均値です。そして、今回は久しぶりに各学級の貸出冊数もお知らせします。

1月と3月(1年～5年)に、また読書冊数調査を行いますので、よろしくお願いします。

	1組	2組	3組	4組	合計
1年	208	239	91		538
2年	81	127	219	210	637
3年	26	654	335	170	1185
4年	528	188	118	163	997
5年	225	90	44	92	451
6年	69	109		19	197

★図書委員オススの本★

『むかし僕が死んだ家』 東野圭吾【著】

2年2組 尾形実咲



登場人物は「わたし」と「沙也加」のふたりだけ。しかも、話の大半は、松原湖近くの「灰色の家」。謎が謎呼ぶ本格ミステリーで伏線の連続。背筋が凍る不気味さに引き込まれ、一気に読める複雑で恐るべき真実。巧妙なストーリー構成！さすが東野圭吾！

(東野圭吾さんは、先日「秋の褒章」の1つである「紫綬褒章」を受賞されました。「紫綬褒章」とは、長年にわたって、その道一筋に打ち込んできた人や、芸術やスポーツの分野で功績のあった人に贈られるものです。東野圭吾さんの本は他にもたくさんあります。ぜひ、見に来てください。)

☆冬休み中の図書館の開館日☆

○ 12月22日(金) 25日(月) 26日(火) 27日(水)

[11時から16時30分]

○ 一人三冊まで貸し出します。

○ 1月9日の始業式の日、返却してください。

